



2016年6月23日

各 位

会社名 東芝テック株式会社
代表者名 代表取締役社長 池田隆之
(コード番号6588 東証第1部)
問合せ先 経営企画部 広報室長
水野隆司
(TEL 03-6830-9151)

(訂正) 2016年5月20日公表の「2015年度決算説明資料」の一部訂正について

当社が2016年5月20日15時00分に発表した「2015年度決算説明資料」について一部訂正がありましたのでお知らせします。

訂正済の説明資料は添付のとおりです。訂正箇所は下線(実線)で表示しました。

なお、同資料は当社ウェブサイトにも掲載しています。

(<http://www.toshibatec.co.jp/company/ir/material/settlement.html>)。

訂正の理由につきましては、本日公表の「(訂正・数値データ訂正)「平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

— 以 上 —

-
- 当社は、2016年5月20日に平成28年3月期（2015年度）決算短信を公表し、同日、決算説明会を開催いたしましたが、その後、2016年6月23日に決算短信の一部を訂正いたしました。訂正の理由につきましては、2016年6月23日公表の「(訂正・数値データ訂正)「平成28年3月期 決算短信[日本基準](連結)」の一部訂正に関するお知らせ」をご参照ください。
 - 本資料は、2016年5月20日に開催した決算説明会において使用した説明資料を訂正したものです。訂正箇所は下線(実線)で表示しています。

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

2015年度 決算説明資料

2016年 5月20日
東芝テック株式会社

1. 2015年度決算

2. 2016年度業績見通し

3. 海外リテール事業について

業績概要 (2015年度)

- ✓ 2015年度実績は為替の影響により対前年で増収なるも、海外リテール事業(GCS)の赤字が年間通して継続、同事業の営業用資産の評価損も加わり、営業利益は対前年度で155億円の減益
- ✓ GCSの将来計画の見直しにともない、第4四半期では同事業において約190億円の追加減損を計上

- **売上高** 5,328億円 (対前年度+82億円)
為替の影響およびプリンティング事業が堅調に推移したことにより2%増収
- **営業利益** 16億円 (対前年度△155億円)
GCSの赤字基調継続、同事業の営業用資産の評価損も加わり、155億円の減益
- **当期純損失** △1,034億円 (対前年度△1,023億円)
営業利益の悪化に加え、GCS関連資産の減損(846億円)などにより、対前年度で1,023億円の減益。なお、GCSの固定資産およびのれんは15年度中に全額減損
- **配当**
前回の配当予想どおり無配とさせていただきます

2015年度業績

(単位：億円)		15年度 実績	14年度 実績	差異 対前年度
売上高		5,328	5,246	+82
	(伸長率)			(102%)
営業利益		16	171	△155
	(対売上高比率)	(0.3%)	(3.3%)	(△3.0%)
経常利益 (△は損失)		△23	104	△127
	(対売上高比率)	(△0.4%)	(2.0%)	(△2.4%)
税金等調整前当期 純利益 (△は損失)		△891	97	△988
	(対売上高比率)	(△16.7%)	(1.9%)	(△18.6%)
親会社株主に帰属する 当期純損失		△1,034	△11	△1,023
	(対売上高比率)	(△19.4%)	(△0.2%)	(△19.2%)
為替レート				
(円)	US\$	120.77	109.16	+11.61
	EUR	132.74	139.43	△6.69

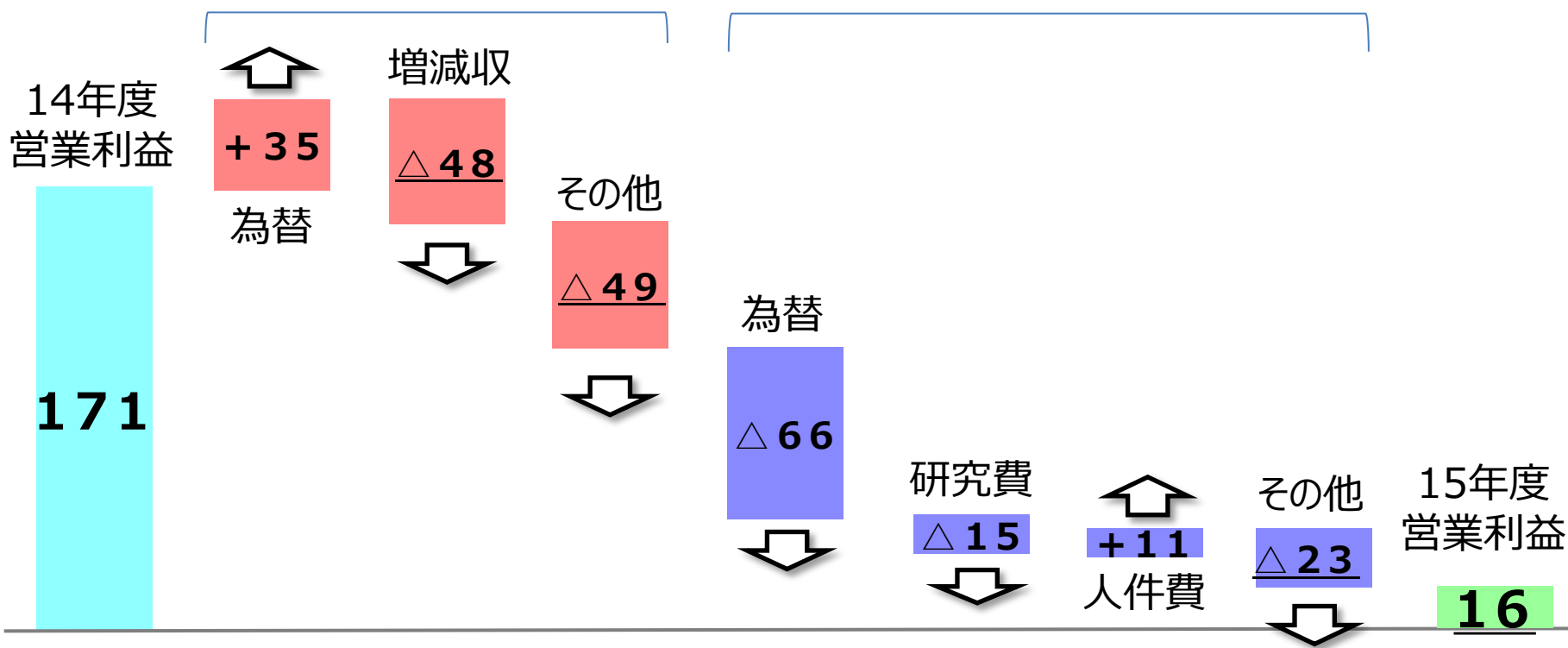
営業利益の増減分析 (2015年度)

対前年155億円の減益要因は、為替影響31億円、
(為替以外の)粗利減97億円、(為替以外の)販管費増27億円

単位：億円

粗利の増減
(利益に対して△62)

販管費の増減
(利益に対して△93)



セグメント情報(1) 2015年度実績

(単位：億円)		15年度 実績	14年度 実績	差異 対前年度
リテール ソリューション	売上高 (伸長率)	<u>3,248</u>	3,244	<u>+4</u> (100%)
	営業損失 (対売上高比率)	<u>△115</u> (△3.5%)	△4 (△0.1%)	<u>△111</u> (△3.4%)
プリンティング ソリューション	売上高 (伸長率)	<u>2,202</u>	2,131	<u>+71</u> (103%)
	営業利益 (対売上高比率)	<u>131</u> (5.9%)	175 (8.2%)	<u>△44</u> (△2.3%)
全社	売上高 (伸長率)	<u>5,328</u>	5,246	<u>+82</u> (102%)
	営業利益 (対売上高比率)	<u>16</u> (0.3%)	171 (3.3%)	<u>△155</u> (△3.0%)

セグメント情報(2) リテールソリューション

(単位：億円)		15年度 実績	14年度 実績	差異 対前年度
リテール ソリューション	売上高 (伸長率)	<u>3,248</u>	3,244	<u>+4</u> (100%)
	営業損失 (対売上高比率)	<u>△115</u> (△3.5%)	△4 (△0.1%)	<u>△111</u> (△3.4%)

◆ 国内市場向POSシステム等

流通小売業の新規出店計画の抑制傾向が続く中、セルフレジ、セルフオーダーシステムなど好調であったものの、ショッピングセンター向け端末等の販売が減少し、対前年度で売上減。

◆ 海外市場向POSシステム等

主要顧客の投資抑制の影響などで伸び悩んだが、為替の影響により、対前年度で売上増。

リテールソリューション：3Q決算発表時(3/14)予想との差異

(単位：億円)		15年度 実績	15年度 3/14予想	差異 対3/14予想
リテール ソリューション	売上高	<u>3,248</u>	3,220	<u>+28</u>
	営業損失	<u>△115</u>	△70	<u>△45</u>
	(対売上高比率)	(<u>△3.5%</u>)	(△2.2%)	(<u>△1.3%</u>)

<海外リテール事業の営業損益悪化ポイント>

①5/12業績修正(△38億円)の主な要因

- 販売用ソフトウェア(TCxGravity)の評価減

新規顧客から注文キャンセル⇨他見込顧客の動向精査⇨販売計画見直し

- 粗利の悪化 売上減／原価低減遅れ／特定物件の粗利悪化

- その他 固定費削減遅れ／既存海外リテール

②5/20業績修正(△27億円)の主な要因

- ハードウェアの在庫評価減

POS端末およびプリンタ、ドロア、ディスプレイ等のPOS周辺機器

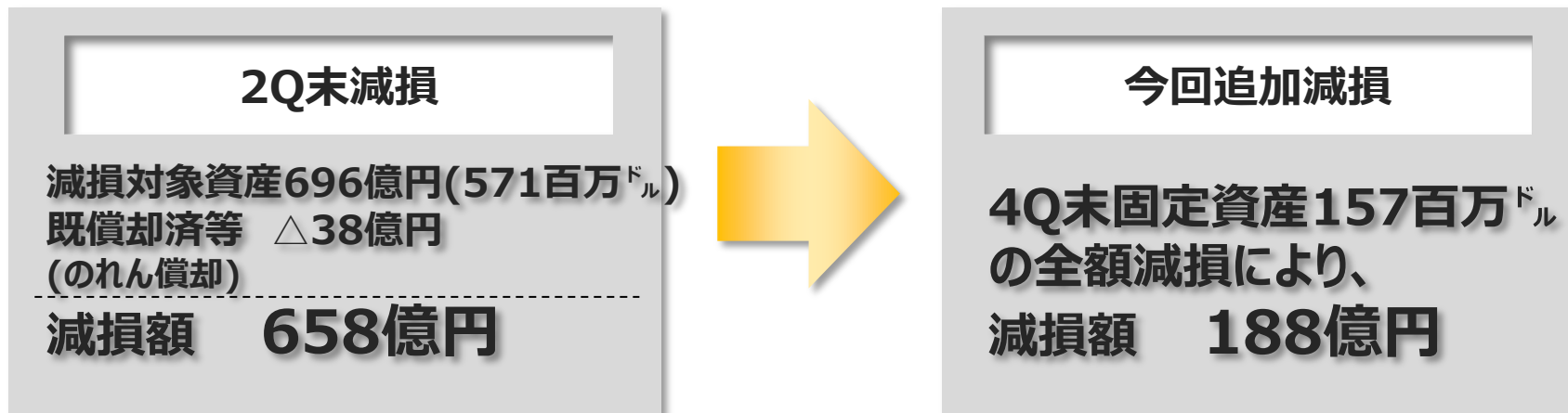
③6/23業績修正(+21億円)の主な要因

- 買掛金・未払金に係る誤謬の訂正

- 売上関連に係る誤謬の訂正

- 在庫評価額に係る誤謬の訂正

リテールソリューション：GCS固定資産の追加減損



*2Q末で のれんはゼロ

<GCS追加減損の経緯>

- 販売用ソフトウェア(TCxGravity)の販売計画見直し
- 15年度下期の業績や足元の事業環境を踏まえGCS全体の事業計画を再見直し

セグメント情報(3) プリンティングソリューション

(単位：億円)		15年度 実績	14年度 実績	差異 対前年度
プリンティング ソリューション	売上高 (伸長率)	2,202	2,131	+71 (103%)
	営業利益 (対売上高比率)	131 (5.9%)	175 (8.2%)	△44 (△2.3%)

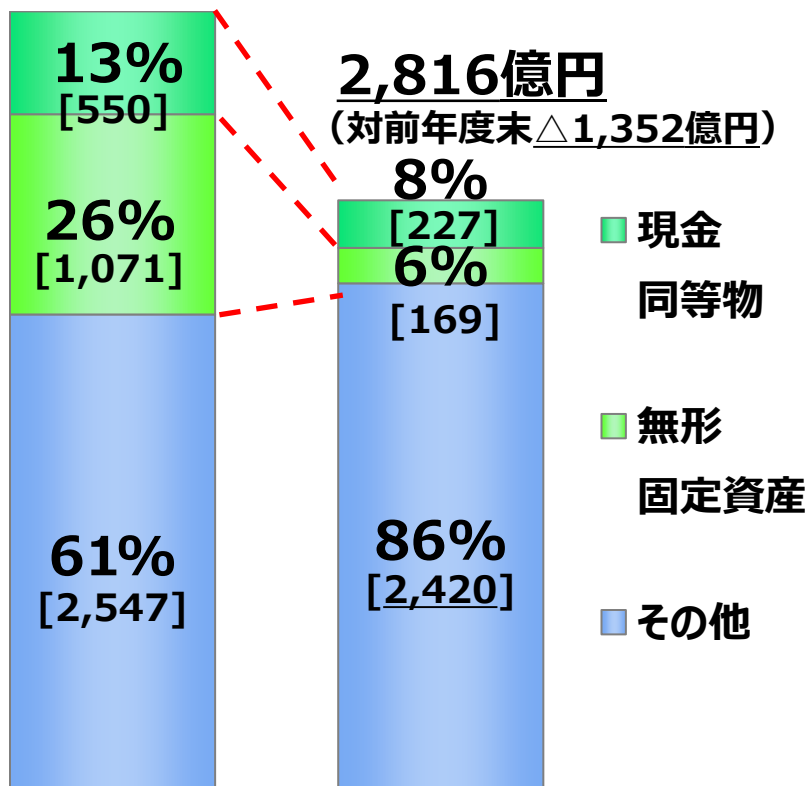
◆ 海外市場向MFP等

現地通貨ベースの対前年度売上高は、米州、欧州が横ばい、アジアはマレーシア、タイでの販売拠点買収により増収。為替影響により米州は増収だが欧州は減収。全体の売上では対前年度で103%増。

貸借対照表(1)

資産の部

4,168億円



◆ 現金同等物

IBMからTGCH*株式の買取、運転資金の悪化等により対前年度末323億円の減少。

*東芝グローバルコマースソリューション・ホールディングス(株)

◆ 無形固定資産

GCS関連資産の減損等により対前年度末902億円の減少。

15年3月末

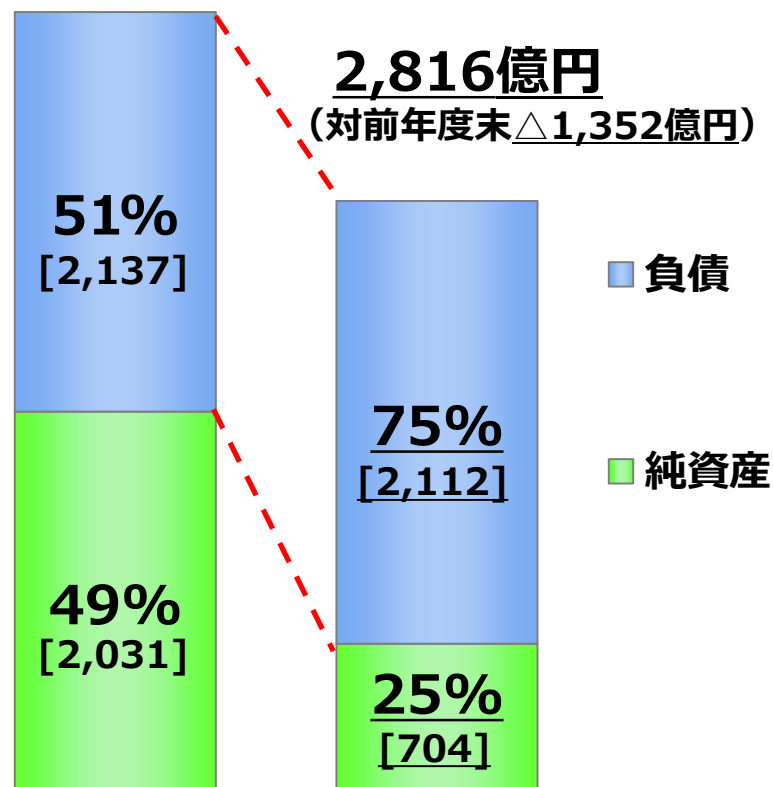
16年3月末

注. [] 内 科目別残高 (単位: 億円)

貸借対照表(2)

負債及び純資産の部

4,168億円



15年3月末

16年3月末

注. [] 内 科目別残高 (単位: 億円)

◆ 負債

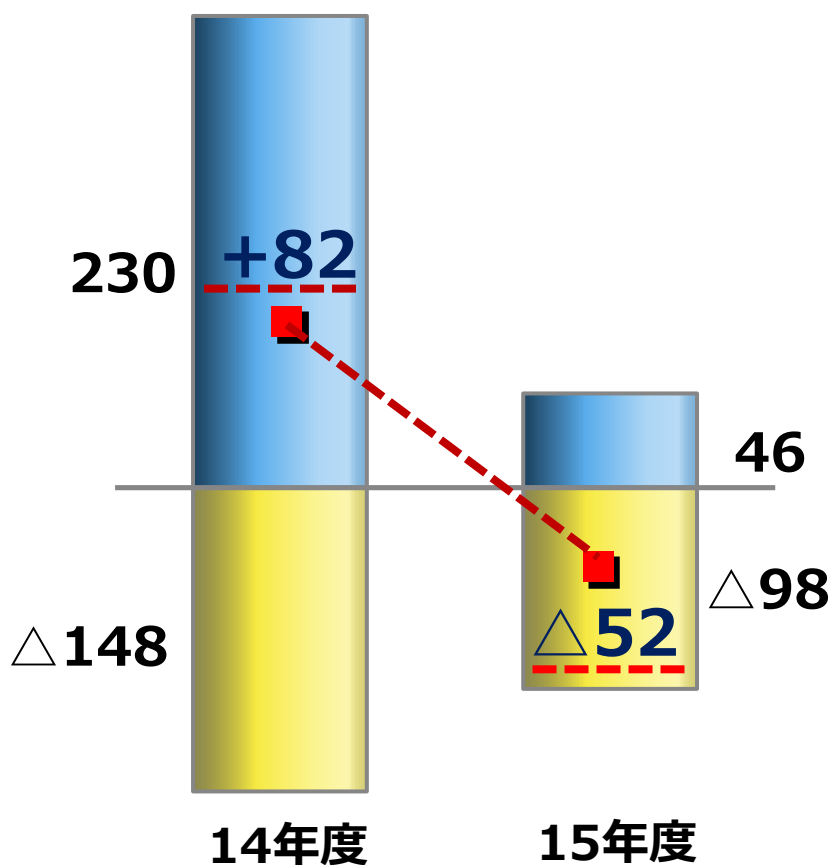
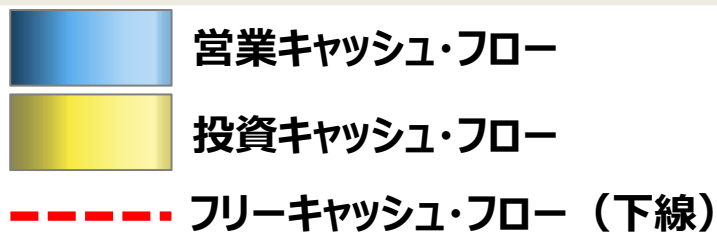
支払手形及び買掛金の減少等により、全体では対前年度末25億円の減少。

◆ 純資産

主にはGCS関連資産の減損等での減益により、利益剰余金が1,054億円減少したこと等により、全体では対前年度末1,327億円の減少。

キャッシュ・フロー

単位：億円



◆ 営業キャッシュ・フロー

損益の悪化による内部創出の減少、
運転資金の悪化などにより、対前同
で184億円の悪化。

◆ 投資キャッシュ・フロー

無形固定資産の取得による支出が
減少したこと等により、対前同で50
億円の改善。

1. 2015年度決算

2. 2016年度業績見通し

3. 海外リテール事業について

業績見通しの概要（2016年度）

- ✓ 売上高：円高反映で2%減とみるも、現地通貨ベースでは3%増
- ✓ 営業利益：GCS損益改善効果を織込み、124億円の増益
- ✓ 純損益：黒字転換により最終利益は5億円

- **売上高** **5,200億円** **（対前年度△128億円）**

国内リテール、海外リテール、プリンティングのいずれのセグメントも現地通貨ベースでは対前年度で増収を見込むも、為替により約290億円の押下げ

- **営業利益** **140億円** **（対前年度+124億円）**

主にはGCSのSG&A(償却費含む)減少、粗利改善などでリテールソリューションの利益改善を見込む。一方、プリンティングソリューションは、為替の影響により約30億円の減益予想

- **当期純利益** **5億円** **（対前年度+1,039億円）**

構造改革費用に加え、GCS赤字継続による法人税率のゆがみ等もあり、最終利益は5億円

2016年度業績見通し

(単位：億円)		16年度 見通し	15年度 実績	差異 対前年度
売上高		5,200	<u>5,328</u>	<u>△128</u>
	(達成率/伸長率)			(98%)
営業利益		140	<u>16</u>	<u>+124</u>
	(対売上高比率)	(2.7%)	(<u>0.3%</u>)	(<u>+2.4%</u>)
経常利益 (△は損失)		100	<u>△23</u>	<u>+123</u>
	(対売上高比率)	(1.9%)	(<u>△0.4%</u>)	(<u>+2.3%</u>)
親会社株主に帰属する当期 純利益 (△は損失)		5	<u>△1,034</u>	<u>+1,039</u>
	(対売上高比率)	(0.1%)	(<u>△19.4%</u>)	(<u>+19.5%</u>)
為替レート(円)	US\$	110.00	120.77	△10.77
	EUR	125.00	132.74	△7.74

セグメント情報 2016年度業績見通し

(単位：億円)		16年度 見通し	15年度 実績	差異 対前年度
リテール ソリューション	売上高 (達成率/伸長率)	3,220	<u>3,248</u>	<u>△28</u> (99%)
	営業利益(△は損失) (対売上高比率)	40 (1.2%)	<u>△115</u> (△3.5%)	<u>+155</u> (+4.7%)
プリンティング ソリューション	売上高 (達成率/伸長率)	2,120	2,202	△82 (96%)
	営業利益 (対売上高比率)	100 (4.7%)	131 (5.9%)	△31 (△1.2%)
全社	売上高 (達成率/伸長率)	5,200	<u>5,328</u>	<u>△128</u> (98%)
	営業利益 (対売上高比率)	140 (2.7%)	<u>16</u> (0.3%)	<u>+124</u> (+2.4%)

1. 2015年度決算

2. 2016年度業績見通し

3. 海外リテール事業について

海外リテール事業（1）課題

● 売上高・販売

- メンテ事業競争激化や主要顧客による投資抑制等で15年度売上高の現地通貨ベースは対前年から若干縮小
- オムニチャネルソリューションは成長見通しが鈍化

● 原価低減の遅れ

- ソリューション長期化による低粗利物件

● 構造改革の進捗

- 人員適正化は進捗あるも、完了は16上までズレ込み
- 9拠点閉鎖計画は8拠点まで完了

● 会計処理機能や業務プロセスの改善

海外リテール事業（２）施策

● 売上構成改善による限界利益率改善

- セルフサービス商材やローカルフィット商材での案件獲得
- ソリューションビジネス拡大
- メンテサービスメニューの拡大

● 原価低減による限界利益率改善

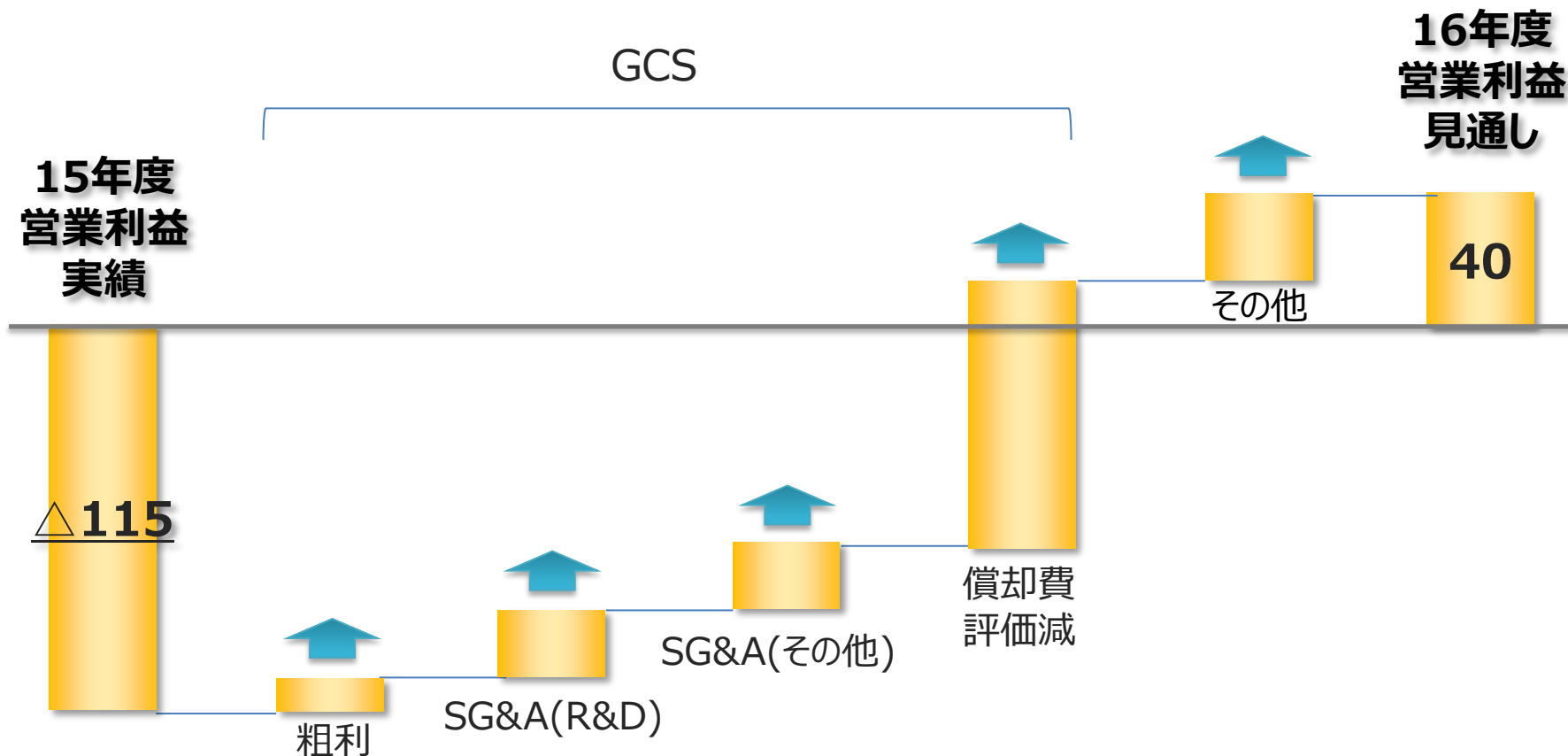
- CR推進、サービス効率化
- SCM費用(変動費)、外部委託費の削減

● 構造改革による固定費削減

- 人員適正化を含む構造改革のスピードアップ
- 拠点閉鎖の追加施策
- 既存拠点バックオフィスの活用

海外リテール事業（3）回復イメージ

* 営業利益実績/見通しはリテールソリューションセグメント全体



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

TOSHIBA

Leading Innovation >>>